

ACEWELL®

ATV/オートバイ用多機能デジタルメーター

ACE-6XXX 取扱説明書

ACE-64XX: 9,000rpm

ACE-65XX: 12,000rpm

ACE-66XX: 15,00rpm

E 13 10R-0312652



この度は弊社製品をお求めいただきまして誠にありがとうございます。この説明書はACE-6XXX-XXシリーズ用に書かれています。シリーズによりタコメーターのスケールが異なり、それぞれのシリーズにはLEDが異なるモデルが用意されています。説明書の写真が、お手元のモデルとはインジケーター配列などが異なる場合がございます。タコメーターのスケールが異なるモデルの一覧は以下のとおりです。

パネル説明

- | | |
|------------------|--------------------|
| 1. タコメーター目盛 | 6. リセットボタン |
| 2. 針式タコメーター | 7. モードボタン |
| 3. 1行目：現在・最大速度表示 | 8. シフトワーニングインジケーター |
| 4. 2行目：他機能表示 | 9. バーグラフ温度計 |
| 5. ギヤインジケーター | 10. バーグラフ燃料計 |
| | 11. LEDインジケーターランプ |

異なるモデルはそれぞれ異なったLEDインジケーターを装備しています。それぞれのアイコンは以下のとおりです：

左ウインカー/緑	オイル警告灯/赤
ハイビーム/青	N ニュートラルランプ/緑
右ウインカー/緑	R リバースギアランプ/緑
ハザードランプ/赤	D ドライブランプ/緑
P 駐車灯/緑	エンジン温度警告灯/赤
ウインカー/緑	リアフォグランプ/橙色
リアウインカー/緑	エンジン停止警告灯/赤

特徴

- 針式タコメーター・各種デジタル機能・6～10個のLEDインジケーターを装備。
- 針式タコメーター・スピードメーター・バーグラフ温度計・バーグラフ燃料計・ギヤインジケーターと他1つの機能を同時に表示。
- 99ラップラップタイマーとオプションのワイヤードリモコン。
- ギヤインジケーターは速度とエンジン回転数よりギヤポジションを算出。
- オプションの温度センサーで外気温の計測が可能。
- 燃料計は990オームまでのフェューエルセンサーに対応。リザーブモードではバーグラフは表示されず、入力信号線が-veに接続されたときに燃料警告を表示。燃料計機能が不要の場合は機能をOFFにすることが可能。
- バッテリー警告は11.0V～15.0Vの間で任意の警告電圧に設定が可能。
- スピードメーターは必要に応じて小数点以下の表示をON/OFF可能。(例：100または100.5)
- 視認性に優れた12mmのシフトワーニングLEDを装備。
- 30km (18.6miles) 未満の時、任意の値にオドメーターを設定することが可能。
- 設定可能ホイール外周長は1～3999mm。
- ブラケット・回転信号線・ホール又はリードタイプスピードセンサー・フィッティングキット・ワイヤーハーネスと水油温用温度センサーを標準添付。
- 優れた防水・耐振動・耐ノイズ設計。

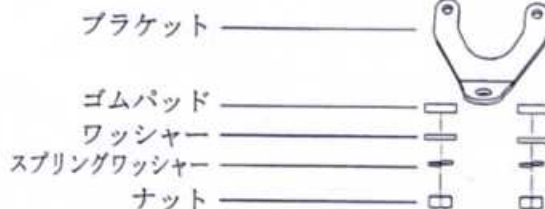
仕様

機能	記号	規格
針式タコメーター		ACE-64XX 9,000rpm ACE-65XX 12,000rpm ACE-66XX 15,000rpm
デジタルタコメーター	RPM	10-19,990 rpm,
スピードメーター	Km/h / MPH	2.4-399.9 km/h (248.5 MPH),
最高速度	MAX SPD	2.4-399.9 Km/h (248.5 MPH),
平均速度	AVG SPD	2.4-399.9 Km/h (248.5 MPH),
温度1		0°C-180 °C /32°F-356°F
温度2		0°C-180 °C /32°F-356°F
最高温度		0°C-180 °C /32°F-356°F <0°C display -L-, >180 °C display -H-
トリップ1&2	Trip 1&2	0.0-999.9 KM /624.9Miles
オドメーター	ODO	0 - 999999 KM, 0-624999 Miles
時計		AM/PM 0:00' - 11H59' / 23H59'
走行時間	RT	0-99H59' 59"
総走行時間	TT	0-999999H
総運転時間	HRTT	0-999999H
電圧計	V	8.0-18.0 Volt and battery warnings
Gear indicator	N	N, R, 1, 2,...8 gears and off mode
メンテナンスリマインダー		9999km, 9999 hours or OFF
バーグラフ温度		1-7 Bar-graphic or off mode
バーグラフ燃料計		Adjustable 100 -9900, reserve mode, or not displayed
ラップタイマー	LAP	99 laps

電源電圧	DC 12V
タコメーター入力	CDI 又は イグニッションコイル信号
速度センサー	リード又はホールセンサー
温度センサー	サーモセンサー
速度パルス分周器	1-199 分周
最高速度パルス周波数	7K Hz
タイヤ外周長設定	1mm-3999mm
外形寸法	130.6mm x83.4mmx31.3mm

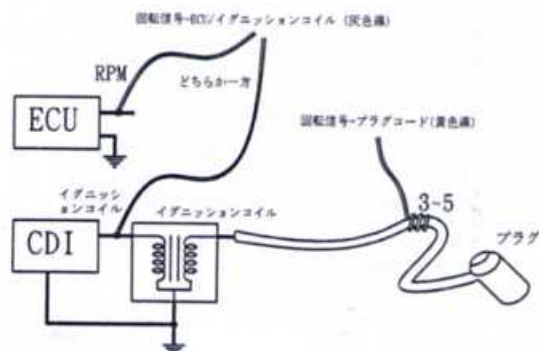
取付けと部品

メインユニット取り付け：



タコメーターセンサー線の配線：

- 黄色または灰色どちらか片方の線を使用します。
- 黄色の線はプラグコードに巻きつけて使用します。
 - 信号強度はイグニッションコイルのタイプに依存します。
 - プラグコードに2-5回巻きつけて固定します。巻き数が多いほど信号強度は強くなります。信号が弱すぎる場合には回転数が表示されず、非常に強い場合には過剰に数値が反応します。正しく表示がされないと思われるときには同相の1MΩ抵抗をセンサー線に割り込ませることをお試しください。
- 信号が不安定な場合、灰色の配線をECUのタコメーター信号線やイグニッションコイルのプラス側へ接続することをお試しください。(このとき黄色の配線は配線しません。)

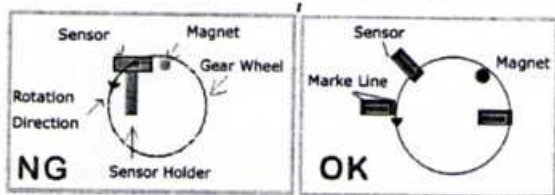
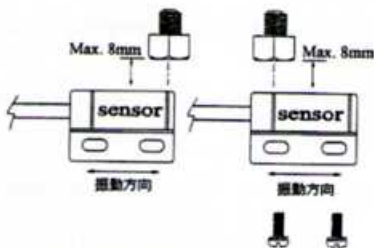


速度センサーの取付け:

ACEWELLでは数種類の速度センサーをご用意しております。; セットにはいずれかのセンサーが同梱されています。モデルが純正ギヤボックススピードセンサーに接続されることを意図したセットの場合、速度センサーは同梱されません。

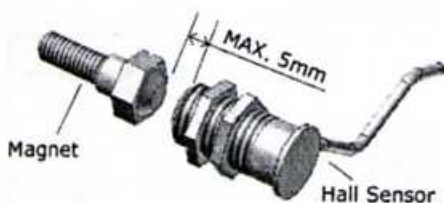
リードセンサーとマグネット:

1. このセンサーはオートバイ用に最も汎用性の高いセンサーです。ホイールの回転する部分(一般的にはブレーキディスク固定ボルト)にマグネットを装着します。
2. センサーに記されている位置決め線の中心をマグネットが通過するようにセンサーの取り付け位置を決めてください。
3. センサーは振動方向と垂直に取り付けます。振動方向と平行にセンサーを取り付けることは車両の振動により不具合の原因となります。
4. マグネットとセンサーの隙間が8mm以内であることを確認してください。



ホールセンサーとマグネット:

1. オプションのセンサーホルダーを併用してATVのリアホイールやオートバイのフロント足回りに取り付ける汎用センサーです。
2. ホイールやドライブシャフトなどの回転する部分で、センサーの検知面を通過できる位置にマグネットを取り付けます。
3. センサーの検知面を磁石の中心が通過するようにセンサーの取り付け位置を決めてください。
4. マグネットとセンサーの隙間が5mm以内であることを確認してください。



メーターワイヤーセンサー(日本向け製品添付品):

純正の機械式メーターと交換することでメーターワイヤーの回転を電気信号に変換するセンサーです。

温度センサーおよびセンサーアダプター:

1. セットには水温センサーが付属しています。センサーを適切な位置へ簡単に取り付けするために冷却水ホースに割り込ませるセンサーアダプターをオプションで用意しています。(内径20, 22, 24, 26mm)
2. センサーアダプターは切断した冷却水ホースにアダプターを割り込ませ、付属の締め金具で確実に固定します。
3. センサーをアダプターに確実に閉め込んで固定します。
4. サーモスタットが開いてから冷却水を補充し、十分にエア抜きを行なってください。

ワイヤードリモコンの取り付け:

1. リモコン取り付けステーをハンドルバーに固定します。
2. ステーには3箇所取り付け穴がありますので車両に適した箇所を使って取り付けください。
3. リモコンの配線を本体側のカプラーに接続します。

機能

RPM: デジタルタコメーター

1. フルスケール19,900rpmでエンジン回転数を数字で表示します。20,000rpm以上の時には19,999rpmと表示されます。
2. タコメーター信号線は2本あり、いずれか片方を使用します。黄色線はプラグコードへ巻きつけて使用し、灰色線はECUまたはイグニッションコイルに接続して使用します。

シフトワーニング機能

1. 任意に設定したエンジン回転数でシフトワーニング警告LEDを点滅させ、ギヤチェンジのタイミングやオーバーレブを知らせる機能です。
2. 設定回転数の手前500rpmで黄色のインジケーターLEDが点滅します。
3. 設定回転数を超えるとシフトワーニングLEDが点滅します。エンジン回転数が設定回転数を下回れば点滅は停止します。

MAX RPM: 最高回転数

前回リセット操作を行なった以降の最高エンジン回転数を表示します。

Km/H or MPH: スピードメーター

1. フルスケール399.9Km/h (マイル表示では248.5MPH) で速度を表示します。
2. スピードセンサーからの最高パルス周波数は7KHzです。
3. 非常に小さな外周長さや、非常に大きな分周比を設定した場合、最高パルス周波数の関係で速い速度が表示できない場合があります。

MAX: 最高速度

前回リセット操作を行なった以降の最高速度を表示します。

AVG: 平均速度

前回リセット操作を行なった以降の平均速度を表示します。平均速度はTRIPをRTで割った計算値です。

TRIP 1&2: トリップ 1&2

前回リセット操作を行なった以降の走行距離を表示します。1と2は独立してそれぞれリセットすることが可能です。

ODO: オドメーター

1. メーター使用開始からの総走行距離を表示します。
2. オドメーターの表示が30Km未満の場合に限り、オドメーターを任意の値に設定することが可能です。任意値として30Km以上の値を設定した場合、または取付け後30Km以上走行してオドメーターの値が30Kmを超えた場合、それ以降、一切の変更ができなくなります。任意値にセットする場合、桁の入力間違いなどに十分注意してください。

RT: ライディングタイム

1. 前回リセット操作を行なった以降の走行時間を表示します。
2. 走行を開始すると自動的に積算を開始します。

TT: 総走行時間

1. メーター使用開始からの総走行時間を表示します。
2. この値はリセットすることができません。

HRTT: 総運転時間

1. メーター使用開始からのエンジン運転時間を表示します。
2. エンジンを始動すると自動的に積算を開始します。
3. この値をリセットすることはできません。

🕒: 時計

現在の時刻を12時間制または24時間制で表示します。

🌡️ 1 and 2: 温度計 1 & 2

1. 測定(表示)温度範囲は 0°C-180°C / 32°F-356°Fです。
2. 温度が0°C (32°F) を下回った場合、または温度センサーが外れた場合には -L-°C (-L-°F) を表示します。また、温度が180°C or 356°Fを上回った場合には、-H-°C (-H-°F) を表示します。
3. エンジン温度をセンサー1で、外気温をセンサー2で計測することが可能です。
4. 設定した警告温度を超えると、バーグラフ温度計とデジタル温度計、そして温度警告LEDが点滅します。

🌡️ 2: 路面凍結警告(温度計2)

1. 温度計2(外気温計)には路面凍結警告機能がついています。温度計2を使用する設定にして、センサーが接続されていればこの機能を使用するための特別な設定は必要ありません。
2. 外気温が3°C以下になると🌡️ LEDインジケーターと液晶上の🌡️ アイコンが点滅します。3°Cを超えると警告は停止されます。

MAX TEMP 🌡️ 1&2: 最高温度 1 & 2

前回リセット操作を行なって以降の最高温度を表示します。

🔋: デジタル電圧計・バッテリー警告

1. 車両の電源電圧(メーターへの供給電圧)を表示します。
2. 設定値には b-on・b-off・b-HIの3種類があり、それぞれの設定範囲は11.0V~15.0Vです。
3. b-onは低電圧警告開始電圧です。ここに設定した電圧以下になると警告LEDが点滅します。
4. b-offは低電圧警告終了電圧です。ここに設定した電圧以上になると警告を終了します。この値は必ずb-onで設定した値よりも高い電圧を設定してください。
5. b-HIは高電圧警告開始電圧です。ここに設定した電圧以上になると警告LEDが点滅します。

N: ギヤインジケーター

1. 内蔵ギヤインジケーターは現在速度と回転数からギヤポジションを計算して表示します。
2. ギヤインジケーターを使用する前には学習操作が必要です。

SCAN: スキャン機能

1. ディスプレイ2行目の数値を設定した秒数ごとに自動的に機能を切り替えながら順番に表示する機能です。設定可能な秒数は1~20秒間隔です。
2. この機能をOFFにした場合はボタン操作により表示を切替えます。

🛢️: 燃料計

1. 8段階のバーグラフで燃料を表示します。
2. 燃料計を使用する場合、燃料残が無い時のフューエルセンサー抵抗値と燃料満タン時のフューエルセンサー抵抗値をそれぞれ10~990Ωの間で設定する必要があります。2つの抵抗値に基づき、バーグラフの表示はリニアに変化します。燃料残が(抵抗値の上で)10%切った時、バーグラフ表示は点滅し、警告LEDが点灯します。
3. リザーブインジケーターとして使用する場合、燃料残量スイッチに接続して、メーター側の設定を「RES」モードにセットします。燃料計配線がアースされると警告LEDが点灯します。
4. 燃料計機能が必要ない場合には、機能をOFFすることができます。

🌡️: バーグラフ温度計*

1. 8段階のバーグラフで温度を表示します。
2. 警告温度をセットすると、下から4番目のバーが、設定した警告温度の-15°Cで点灯するように自動的にセットされます。バー表示1つは15°Cを表します。
3. バーグラフ温度計は設定された警告温度を超えると点滅します。

LAP: ラップタイマー

1. 最大99ラップ分、1周毎のラップタイムを記録できます。
2. この機能は付属のワイヤードリモコンで操作します。

誤動作防止時間設定:

1. 短い間隔の信号入力による誤動作を防止するため、設定した時間の間に入った

信号を無視させることができます。
2. 設定範囲は1~20秒間です。

速度表示オプション:

1. 速度表示の小数点以下の値を表示するかしないかを設定することが可能です。
2. スピードメーターの表示に関する設定値に依存します。

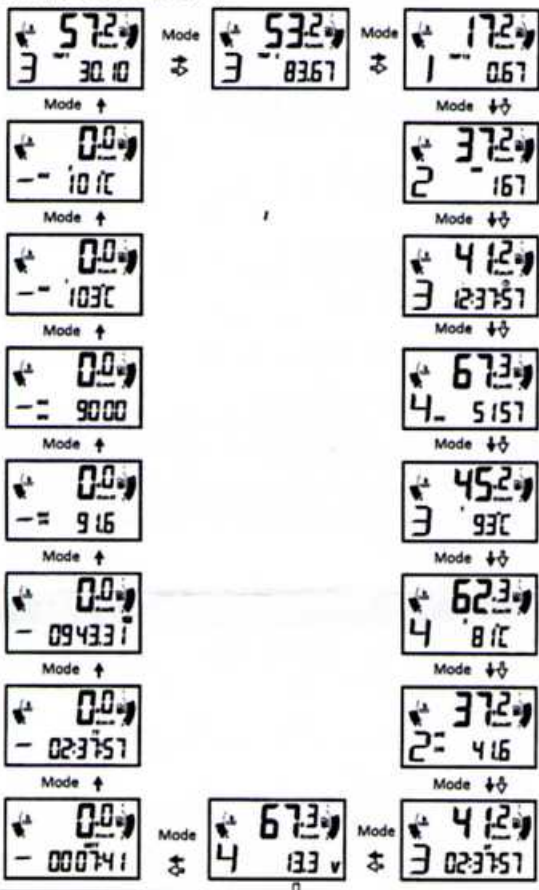
メンテナンスリマインダー

1. メンテナンスリマインダーは距離、または運転時間を基準にしてセットすることが可能です。この機能が不要な場合はOFFすることも可能です。
2. 距離を基準にする場合は9999Kmまでの間隔を設定できます。
3. 運転時間を基準にする場合は9999時間までの間隔を設定できます。

ボタン操作

MODE ボタン

1. 速度パルスが入力されていない時は、MODEボタンを押すごとに“→”の順番に機能が表示されます。
2. 速度パルスが入力されているときはMODEボタンを押すごとに“⇐”の順番に機能が表示されます。



RESET ボタン
短く押した場合、MODEボタンを押した時と反対側に機能が表示されます
データのリセット

1. TRIP1・TRIP2・最高速度・最高回転数・最高温度が表示された状態でRESETボタンを2秒間長押しするとその数値をリセットして0に戻すことができます。メンテナンスリマインダーの数値は設定されたメンテナンス間隔に戻ります。
2. TRIP1・平均速度・ライディングタイムはいずれかをリセットした時点で残り2機能の数も同時にリセットされます。
3. オドメーター・時計・総運転時間・総走行時間の各値はリセットできません。



シフトワーニング回転数設定

1. MODE または RESET ボタンを押してデジタルタコメーターを表示させます。そしてスロットルを開き、警告させたい回転数までエンジン回転を上げます。
2. RESET ボタンを押すと、その時の回転数が警告回転数としてセットされます。
3. 以降、設定した回転数までエンジン回転が上昇すると警告LEDが点滅動作します。
4. 再設定を行う場合は、デジタルタコメーターを表示させた状態でRESET ボタンを2秒間長押しします。

ギヤインジケーター学習操作:

1. リアホイールを使って速度を検出している場合、安全に固定されたレーシングスタンドなどで車輪を浮かせた状態で学習させることが可能です。フロントホイールを使って速度を検出させている場合、学習操作のために実際に車両を走行させる必要があります。
2. MODE または RESET ボタンを押して、デジタルタコメーターを表示します。
3. MODE ボタンを2秒間長押しするとギヤポジション数設定モードになります。
4. ギヤインジケーターが初期値の 0 で点滅します。

5. RESET ボタンでギヤポジション数を4~8速の中から選択します。“0”を選ぶとギヤインジケーターをOFFすることができます。
6. MODE ボタンを押すとギヤ比の学習モードに入ります。6. で “0” を選んだ場合には学習操作は終了となります。
7. ギヤインジケーターに「1」が点滅します。ギヤを1速に入れ、車両を前進させ、エンジン回転数を2000~4000rpmの間で一定の回転数となるように走行します。
8. 回転数が一定に保たれた状態で約5秒間経過するとギヤインジケーターに「-」が点滅します。これで1速のギヤ比が学習されたこととなります。
9. MODE ボタンを押すと1速のギヤ比が記憶され、2速の学習に入ります。
10. ギヤインジケーターに「2」が点滅します。ギヤを2速に入れ、エンジン回転数を2000~4000rpmの間で一定の回転数となるように走行します。
11. 回転数が一定に保たれた状態で約5秒間経過するとギヤインジケーターに「-」が点滅します。これで2速のギヤ比が学習されたこととなります。
12. MODE ボタンを押すと2速のギヤ比が記憶され、3速の学習に入ります。
13. 上の11.~13.の操作を繰り返して、すべてのギヤのギヤ比を学習させます。すべてのギヤ比の学習操作が終わった状態でMODE ボタンを押すと通常モード(デジタルタコメーター)に戻ります。
14. 学習したギヤ比を保存しないですべて終了するにはMODE ボタンを2秒間長押しして通常モードに戻ります。

ラップタイマー用ワイヤードリモコン:

1. ワイヤードリモコンにはMODEとLAPの2つのスイッチがあります。MODEスイッチは本体のMODEボタンと全く同じ機能です。
2. LAPボタンを2秒間長押しするとラップタイマーモードに入ります。
3. ラップ計測操作:
 - a. ラップタイマーモードに入っているとき、LAPボタンを押すとラップ計測機能のスタート・ストップができます。MODEボタンを押すと、その周回のデータが記録されます。ディスプレイに周回データが3秒間表示され、その後速度表示に戻ります。計測が停止している状態でLAPボタンを2秒間長押しするとラップタイマーモードを抜け、通常モードに戻ります。
 - b. 保持可能なラップ数は最大99ラップまでとなります。100ラップ目以降のデータは1ラップ目より順次上書きされます。例えば101ラップ目のデータは2ラップ目のデータとして表示されます。

ラップ記録表示:

1. ラップタイマーモードに入っていて計測が停止している状態でMODEボタンを押すと1周目のデータが表示されます。ディスプレイには周回数とその周回の計測時間が表示されます。
2. MODEボタンを押すと次の周回のデータが表示が変わります。
3. LAPボタンを2秒間長押しするとラップタイマーモードを抜け、通常モードに戻ります。

タイヤ外周長一覧表(マグネットセンサー用)

1. 下表は次の計算式を使用して計算しています。
「タイヤの直径(インチ)×25.4(mm)×3.1416 = タイヤ外周長」
表中の直径はホイールサイズではなく、タイヤを含めた直径であることに注意してください。
2. 車両のタイヤサイズを確認して下表より外周長を求めてください。

タイヤ直径	タイヤ外周長 (mm)	タイヤ直径	タイヤ外周長 (mm)	タイヤ直径	タイヤ外周長 (mm)
15 inch	1197	19 inch	1516	23 inch	1835
16 inch	1277	20 inch	1596	24 inch	1915
17 inch	1357	21 inch	1676	25 inch	1995
18 inch	1436	22 inch	1756	26 inch	2075

3. 表の数値は概算値です。実際に車両2タイヤの外周長をmm単位で測定してメーターに設定いただくことを強くおすすめします。
4. 本機は、速度パルスの間隔を測定して速度を計算します。表の数値はマグネットセンサーを使用した場合に限った数値です。
5. 製品に付属しているメーターワイヤーセンサーを使用する場合、設定数値は「メーターワイヤー軸1回転あたりの距離(mm)」となります。バイクを押してメーターワイヤーを回し、メーターワイヤー軸が360度回転する間に車両がどれだけ進むかをmm単位で計測していただいたものが設定数値となります。一般的な国産車の場合、JIS規格値の「60Km/h=1400rpm」から計算された715mmという値が設定値となります。ただし、ホイールサイズなどを変更している場合は測定が必須です。
6. マグネットセンサーの場合、マグネットを増やすことができます。マグネットを2個にした場合、分周器の設定を「002」にします。ただし、マグネットの数は2程度までに留めるほうが良いでしょう。
7. 本機はスピードパルス分周器(1/2~1/199)を内蔵しています。この機能を利用することでスピードパルス数が異なる、例えば車両に装備されている純正スピードメーター用センサーなどが利用できる可能性があります。分周機能の数値はホイール1回転あたりのパルス数を設定し、スピードメーター機能の数値はタイヤ外周長をmm単位で設定します。純正スピードセンサーの流用についてはその正確なスペックや信号の波形などをよく理解した上でなければ、車両やメーターに対して故障の大きなリスクを生じます。最低限、車両の整備書を熟読して接続が可能かどうかの検討を行なって下さい。この機能に関するお問い合わせの際には最低限整備書の内容が必要となりますので、お問い合わせの前にならずにご用意ください。また、センサーのスペックによっては接続ができない場合もございます。その際には別売のマグネットセンサーをご使用ください。

時計・タコ・外周長・分周・単位・小数点・温度・リマインダー・燃料の設定

1. セットアップモードでは現在時刻、12/24時間制切替、シフトワーニング警告回転数、タコメーターパルス数、タイヤ外周長、スピードパルス数、使用単位、小数点表示、メンテナンスリマインダー、バッテリー警告、温度単位および警告温度、フェューエルセンサー抵抗値、ラップタイマー、オドメーター初期値の各設定を変更可能です。このモードで75秒間全くボタン操作が無い場合には自動的に通常モードに戻ります。

2. セットアップモードに入るためにはMODEボタンとRESETボタンを同時に2秒間長押しします。セットアップモードの中では、MODEボタンを押す度に設定する項目が移動します。設定される項目は画面上で点滅しています。この状態でRESETボタンを押すと項目の数字が増えたり、単位が変更されたりします。どの画面からでもMODEボタンの2秒間長押しで通常モードへ戻ります。
3. セットアップモードは「12/24H」および「XX:XX-XX」画面から始まります。12/24時間制を選択して、時計を「時」「分」と順番に設定します。設定が完了したらMODEボタンを押すと次の画面に移動します。
4. 次に「RPM rXXX0」画面になります。出荷時は「RPM r06500」となっています。シフトワーニング回転数をMODEボタンで1ケタずつ移動させながらRESETボタンで数値を設定します。設定が完了したらMODEボタンを押すと次の画面に移動します。
5. 次に「RPM SP 1r1P」画面になります。出荷時は「RPM SP 1r1P」となっています。設定には1r1P、1r2P、1r4P、2r1P、3r1Pの5種類があります。数値の「r」は回転、「P」は点火信号を意味します。例えばエンジン2回転当たり1回の点火信号が発生する車両に装着する場合の設定値は「2r1P」となります。
6. RESETボタンを押すたびに設定値が順番に変わります。設定が完了したらMODEボタンを押すと次の画面に移動します。
7. 次に「SPD SE n HALL」又は「SPD SE n rEEd」が表示されます。HALLはAcowell独自の2線式ホールセンサー（付属ワイヤーセンサーも含みます）に使用するモードです。rEEdはリードセンサー（別売のマグネットセンサー）や3線式のセンサーなどに使用するモードです。設定が完了したらMODEボタンを押すと次の画面に移動します。
8. 次に「cXXXX」画面になります。タイヤ外周長を設定します。4つの数字は外周長をmmで表しています。MODEボタンで1ケタずつ移動させながらRESETボタンで数値を設定します。設定が完了したらMODEボタンを押すと次の画面に移動します。
9. 次に「SPD P-001」画面になります。ホイール1回転あたりのパルス数を入力します。付属ワイヤーセンサーやオプションのマグネットセンサーをマグネット1個で使用する場合、設定値は「P-001」となります。MODEボタンで1ケタずつ移動させながらRESETボタンで数値を設定します。設定が完了したらMODEボタンを押すと次の画面に移動します。
10. 次に単位設定画面になります。RESETボタンを押すたびにKm/hとMPHが切り替わります。設定が完了したらMODEボタンを押すと次の画面に移動します。
11. 次に、「99.9Km/h SPD & on」または「99Km/h SPD & oFF」が表示されます。小数点以下の表示をするかしないかの設定となります。設定が完了したらMODEボタンを押すと次の画面に移動します。
12. 次にメンテナンスリマインダー設定画面になります。「TRIP」「RT」または「oFF」が表示されます。TRIPでは1000km(621miles)が、RTでは100時間が初期設定値となっています。「oFF」の時には、この機能は無効に設定されています。設定をMODEボタンで1ケタずつ移動させながらRESETボタンで数値を設定します。設定が完了したらMODEボタンを押すと次の画面に移動します。
13. 次に「b-on」と点滅する電圧の数値が表示されます。「b-on」は低電圧警告開始電圧で、この電圧を下回ると警告LEDが点滅します。設定可能電圧は11.0V～15.0Vです。設定を完了すると、次に「b-off」と点滅する電圧が表示されます。「b-off」は低電圧警告終了電圧で、この電圧を上回ると警告LEDは消灯します。設定可能電圧は11.0V～15.0Vですが「b-on」設定電圧より高い必要があります。設定を完了すると、次に「b-HI」と点滅する電圧の数値が表示されます。「b-HI」は高電圧警告開始電圧で、この電圧を上回ると警告LEDが点灯します。設定可能電圧は11.0V～15.0Vですが「b-off」設定電圧より高い必要があります。設定が完了したらMODEボタンを押すと次の画面に移動します。
14. 次に「1」で、または「oFF」が表示されます。RESETボタンを押すたびに温度単位、「oFF」表示へと変わります。「oFF」にした場合、メーター上に温度計のバーグラフは表示されなくなります。設定が完了したらMODEボタンを押すと次の画面に移動します。
15. 次に「1 XXX」と14で選択した温度単位が表示されます。温度警告を開始したい温度を1桁ずつ設定します。設定が完了したらMODEボタンを押すと次の画面に移動します。
16. 次に「** 2 °C」、または「oFF」が表示されます。RESETボタンを押すたびに温度単位、「oFF」表示へと変わります。設定が完了したらMODEボタンを押すと次の画面に移動します。
17. 次に「SCAn」と「on」または「oFF」が表示されます。「点滅する 01 と SCAn」が表示されているとき、1秒間隔で液晶表示が次の機能に自動的に切り替わるという設定になります。画面変更時間は1～20秒の間で設定が可能です。設定が完了したらMODEボタンを押すと次の画面に移動します。
18. 次に「on, off または rES」と「」が表示されます。バーグラフがすべて点灯している設定画面は燃料満タン時のフューエルセンサー抵抗値の設定画面です。1桁ずつ設定値を入力します。設定可能範囲は10Ω～1000Ωです。バーグラフが1つだけ点灯している設定画面は燃料0時のフューエルセンサー抵抗値の設定画面です。1桁ずつ設定値を入力します。設定可能範囲は10Ω～1000Ωです。「oFF」に設定した時には燃料計の機能はOFFとなり、メーター上に表示は現れません。「rES」に設定した時には入力線がアースされた時、メーター上に燃料のシンボルが現れ、LEDが点灯します。設定が完了したらMODEボタンを押すと次の画面に移動します。
19. **次に「1r, EF1, EF2 または EF3」表示となります。別売の赤外線センサーを使用する時には「1r」に設定します。「EF1～3」は磁気センサー用の設定です。1周あたりのマグネット埋設個数が1個の場合は「EF1」、2個の場合は「EF2」、3個の場合は「EF3」となります。手元のリモートスイッチを使ってLAP計測する場合には、この設定はどの値となっても関係ありません。設定が完了したらMODEボタンを押すと次の画面に移動します。
20. **次に、「点滅する 01 と SEC」表示となります。ラップタイマーの誤動作を防止するため、ここで設定した秒数の間に複数のラップ信号が入ってもカウントせずに無視します。設定可能秒数は1～20秒です。設定が完了したらMODEボタンを押すと次の画面に移動します。
21. 次に「ODO と 00000X km」表示となります。1桁ずつ設定値を入力します。オドメーターの表示が30Km未満の場合に限り、オドメーターを任意の値に設定することが可能です。任意値として30Km以上の値をセットした場合、または取付け後30Km以上走行してオドメーターの値が30Kmを超えた場合、それ以降、この設定画面は現れなくなり、一切の変更ができなくなります。任意値にセットする場合、桁の入力間違などに十分注意してください。MODEボタンを押すと最初の時計設定に戻ります。2秒間長押しすると通常モードに戻ります。

